

厳しい寒さがようやく和らぎ、春の訪れを実感する頃となりました。
教育ボランティアの皆様におかれましては おかわりありませんでしょうか。
「教育ボランティアニュースレター」の第33号ができましたので、
お届けいたします！

教育ボランティアニュースレター

第33号

発行月 2025年2月

2024年度 学生アンケート・自由記載内容の報告

2024年度の教育ボランティア導入授業では、

1年生科目では「看護技術入門」「多職種連携Ⅰ」「基礎看護技術演習Ⅰ」、
2年生科目では「フィジカルアセスメント」「老年健康生活支援論」「慢性看護論」、
3年生科目では「災害看護論」「在宅療養支援論Ⅰ」「健康学習論」の合計9科目で、
教育ボランティアの皆様にご協力いただきました。

今年度は、学生アンケートの自由記載内容を抜粋してご報告させていただきます。
次年度もひきつづきご指導いただきますよう何卒よろしくお願いいたします！

1年生授業

看護技術入門

- ・実際に初対面の世代の違う方とお話ししたり、演習を行う中で、力の入れ方、話し方など普段では気づかなかったところにも意識が向いて気づきがたくさんあった。
- ・「何か少しでも力になれば」とボランティアさんが仰って下さったので絶対に無駄にしないよう、たくさんの人を支えることで恩返ししていきたいと強く思った。

多職種連携Ⅰ

- ・インタビューでは、質問内容も学部によって見方が異なることが学べた。入院生活の中で患者さんにできるケアを考える上で自分を軸にするのではなく、患者自身の思いに耳を傾けることが大切だと改めて気付いた。
- ・インタビューを通して、職種毎に視点が異なるのが興味深かった。多職種チームを形成し、情報を共有することで患者さんに合った医療を提供できることがわかった。

基礎看護技術演習Ⅰ

- ・ボランティアさんに自分が苦痛を感じていることを言いにくいと言われて、忌憚のない意見をお聞かせくださいと伝えている方でもそのようなことがあるなら、実際の現場でも患者さん自身が自分の感じていることを伝えてくれることは少ないだろうと感じた。より察する力を身につける必要があると感じた。
- ・演習が終わったあとにボランティアさんが「気持ちよかった」とおっしゃっていて、自分たちの技術はまだまだ改善点はあるけれどできていたのだと知って自信が持てた。

2年生授業

フィジカルアセスメント

- ・学生以外を対象にケアをするのは緊張するが、ボランティアさんからの素直な意見がこんなにも学習に繋がるとは思っていなかった。とても有意義な時間だった。
- ・自分が不安そうに話しをすると患者さんが不安に感じることを改めて感じる事ができた。説明できる知識を身につけられるように頑張りたいと思った。

老年健康生活支援論

- ・授業を受けて、認知症は命の危険もある病気なのだと認識が変わった。ボランティアさんの経験やその時に感じたこと、学んだことを聞くことができてとても勉強になった。
- ・教育ボランティアさんが積極的に地域活動に参加することで生き生きとされているのを見て、地域参加への意欲がわいた。

慢性看護論

- ・病を抱えながらもいきいきとされていて、慢性病への考えが変わった。
- ・お話を聴いて看護を考えるとときには、対象者さんの生活を一番大切にしたいと思った。

3年生授業

災害看護論

- ・震災の当時を経験された方のお話はテレビや文章よりも現実味があり、とても貴重な体験になった。家が壊れたり、ライフラインが止まったりすることだけが被災ではなく、それらがなくても違う形で被災している方がいることを知ることができた。
- ・将来看護師をしているときに震災や大きな事故が起きたらどうするべきか、具体的に考えることができた。訓練の重要性を知り、もっと真剣に取り組みたいと思った。

在宅療養支援論Ⅰ

- ・介護をしている方の話はあまり聞いたことがなかったので、ご家族がどのような思いや悩み、不安を持って介護をされていたのかを学べてとても貴重な機会だった。
- ・実際に介護をされていた方から話を聞くことで、医療者が介護者の変化に気づき声掛けを行い、介護者を1人にしないことで負担を減らすことができるという考えに変わった。将来看護職として在宅療養の方と関わるときには要介護者だけでなく、介護者の様子も観察し、変化にいち早く気づき介護者も支えられる看護職者になりたいと思った。

健康学習論

- ・ボランティアさんに伝える体験を通して言葉遣いや知識の整理ができ視野が広がった。
- ・グループ内や学生同士だけでは気づけなかったことも、ボランティアさんの意見を聞くことで、もっとこの視点を取り入れればよかったなどの振り返りができてよかった。